

## 今日のトピック 小幅なレンジで推移するアジア株式市場 利益成長に対する自信を取り戻せるかがポイント

### ポイント1 小幅なレンジでの推移が続く 予想株価収益率は過去の平均水準

- アジアの株式市場は、2月上旬に世界株式市場の大幅調整に連動して下落しましたが、その後も小幅なレンジでの推移が続いています。MSCI AC アジア（除く日本）（以下、アジア株価指数）は1月26日に776.15と史上最高値を更新した後、2月9日まで▲10.3%の下落となりました。4月以降も小幅なレンジでの推移が続いています。株価の調整で予想株価収益率も低下し、5月23日現在12.5倍と過去の平均値（12.3倍）並みの水準となり、割高感はありません。

### ポイント2 利益水準は横ばいで推移 米ドル高傾向も鮮明

- アジア株価指数は、高い利益成長を背景に堅調に推移してきました。しかし、足元の1株当たり予想利益（12カ月先ベース）の水準は2018年4月以降横ばいで推移しています。これは、米中貿易摩擦の懸念が中国や幅広いアジアの企業業績に対する見通しを慎重にさせていることが背景です。
- また、アジア通貨は4月以降、対米ドルで下落傾向が鮮明になっています。米ドル高・現地通貨安は資金の流出リスクやドル建債務の利払い負担の増加などが懸念され、業績的にも重石となる可能性があります。

### 今後の展開 利益成長に対する自信を取り戻せるかがポイント

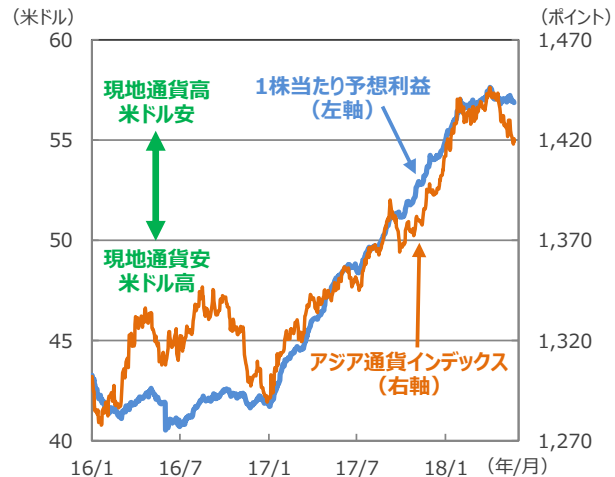
- 米国景気は財政効果によって拡大基調が継続すると予想されます。新興アジアの景気はインフレが比較的落ち着いていて、経常黒字が多いなど経済状況が良好で、堅調さを維持する見通しです。新興アジアは、通貨の変動も新興国の中では相対的に落ち着いています。米中の貿易摩擦も両国で対話路線が続く見通しとなり、一旦終息に向かうと期待されます。アジア株式市場は、外部環境の落ち着きを背景に、利益成長に対する自信を取り戻せるかがポイントとなりそうです。

(ポイント) 【アジア株価指数と予想株価収益率】



(注1) データは2006年1月2日～2018年5月23日。1株当たり予想利益は5月22日まで。アジア株価指数、1株当たり予想利益は2006年1月2日=100。  
(注2) 予想株価収益率 = 株価 ÷ 1株当たり予想利益。1株当たり予想利益は12カ月先ベース、I/B/E/S予想。米ドルベース。予想株価収益率の平均値は2006年1月2日～2018年4月30日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【1株当たり予想利益とアジア通貨インデックス】



(注1) データは2016年1月1日～2018年5月23日。1株当たり予想利益は5月22日まで。  
(注2) 1株当たり予想利益はI/B/E/S予想。米ドルベース。アジア通貨インデックスはMSCI AC アジア（除く日本）米ドルインデックス。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ここもチェック!** 2018年5月22日 金融市場の変動要因を整理 金融市場は落ち着きを取り戻そう  
2018年5月10日 吉川レポート（2018年5月）世界経済の見通しと米中摩擦

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。